

【特定課題セッション】

主題：福祉哲学のあり方

一副題：福祉哲学の必要性と内容

○福祉哲学研究所 氏名 秋山智久（会員番号 151）

キーワード：福祉哲学の必要性、従来の哲学との相違、福祉哲学の研究の枠組みと内容

1. 研究目的

【社会福祉学における価値研究の重要性の探求】 従来そして現在も、我が国の社会福祉研究では、価値・倫理・思想・哲学などの問題はあまり論議されていない。しかし世界的にはすでに多数の社会福祉哲学の著作が出版されており、我が国の社会福祉研究の偏りが多くの識者によって指摘されて来た。なぜならば、社会福祉は「構造・機能・価値」の三元構造（嶋田啓一郎）であり、ソーシャルワークの三大要素は「価値・理論・実践」（国際ソーシャルワーカー協会世界大会：モントリオール〔2000年〕）であるからである。ここでは「価値」が第一に挙げられている。

【現時点での社会福祉研究の弱点】

一方、我が国では、米国に大きく遅れて「論理実証主義」が理論的な基礎となる「エビデンス」が強調され、それが科学的であるとされている。実証は大切である。しかし統計や数字のみで「人間と社会」の課題の多くが解き明かされるとはとても思えない。それで「人間と社会」が分かるとするのは、人間を一面からしか見ていない傲慢な態度ではなからうか。

しかし、日本社会福祉学会の発表ではその多くが、①調査などによるデータの分析であり、またシンポジウムも、②社会福祉問題の指摘・解析であったり、③福祉システムのあり方の検討であったり、④個別分野の現代的課題への対応であったりして、それらの根本にある社会福祉の価値・思想・哲学の課題には触れてこなかった。かつて竹内愛二は「社会福祉は価値である」と言い切り、岡田藤太郎はそれを明確にして「社会福祉の価値の実践である」としたが、そうした視点はどうしたのであろうか。

2. 研究の視点および方法

【従来の「社会福祉の価値」研究の視点】

我が国でこうした内容を表わす言葉は、むしろそれぞれの意味を含んで氾濫していたと言ってもいいかも知れない。いわく、福祉の心、福祉の思想、社会福祉の価値（観）、社会福祉の人間観、福祉マインド、福祉実践の倫理、福祉の哲学、福祉実践の哲学（ソーシャルワークの哲学）、などである。

本発表ではそうした過去の研究や視点の先行研究を踏まえて上で、さらに「福

祉哲学」として体系化するために必要な枠組みと内容を考察しようとする。

本特定課題セッションではこうした「社会福祉研究における価値」の問題を正面から取り上げ、また筆者は特に「福祉哲学」の重要性とその枠組み・内容から、この課題に迫ろうと考えている。その際に検討しておかなければならないのが、次のような従来の社会福祉の価値観を捉える視点であった（なお、本発表では、社会福祉哲学と福祉哲学は同義とする）。

- a 福祉の倫理，ソーシャルワークの哲学（福祉の実践の哲学）
- b 福祉の心，社会福祉の価値観・人間観
- c 「社会福祉哲学（狭義）。

これらを踏まえて更に構築すべき課題が「福祉哲学」（広義）であろう。

3. 倫理的配慮

先行研究の引用や指摘を考察するときには、日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守する（なお、この指針は秋山が学会の価値・倫理委員会の委員長をしていた時に作成したものであるから、その内容は熟知している）。

4. 研究結果

A 「福祉哲学」の必要性： に関して：その必要性は次の8点で考察する。

- ① 平和・人権・安全の探求
- ② 福祉哲学による人間尊重，生命の尊厳の探求
- ③ 価値観の多様化の時代において，「福祉哲学」による社会福祉の進むべき方向の示唆。
- ④ 福祉哲学による社会福祉的人間観の確立。
- ⑤ ソーシャルワーカーの行動指針として，さらに客観的価値の基盤として，ソーシャルワーカーの「倫理綱領」の探求
- ⑥ 福祉哲学による社会福祉実践の価値観の探求。
- ⑦ 福祉哲学による社会福祉の「対象」となる「人」の不幸・苦悩と人生・社会の不条理の考察。
- ⑧ 社会福祉従事者の実践の拠り所としての価値観の提供。

5. 考察

従来の哲学は、古代ギリシア以来、「健常者」を対象とした学問であって、そこからは障害者、高齢者、貧困者などは除外されていた。その代表が、A.マズローの『完全なる人間』であった。新しい福祉哲学は、こうしたエクスクルーシブされてきた「人」を包摂した哲学でなければならない。そのために視点と枠組みが福祉哲学に求められている。